

# 平成28年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

区名	住吉区
学校名	大阪市立墨江丘中学校
学校長名	渡邊 雅彦

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語・数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

## 1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査（国語、数学）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）

### (2) 質問紙調査

- ・生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の中学校第3学年の原則として全生徒
- ・墨江丘中学校では、第3学年 193名



## 平成28年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平成26年度から平成28年度の3年間の全国平均及び大阪市平均との差の推移を示すと、

- ・国語A…全国(-4.3→-2.3→-1.3)、大阪市(-0.8→±0.0→+1.8)
- ・国語B…全国(-5.8→-3.3→-1.5)、大阪市(-1.1→-1.1→+2.9)
- ・数学A…全国(-1.4→+0.2→+5.3)、大阪市(+3.5→+2.6→+7.5)
- ・数学B…全国(-3.9→-0.1→+3.8)、大阪市(+0.7→+1.4→+6.2)

となった。数学A、数学Bが全国平均を、国語A、国語B、数学A、数学Bの全てが大阪市平均をそれぞれ上回った。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の4領域において、A問題、B問題ともに全ての領域で大阪市平均を上回った。「生徒質問紙」によると、「国語の勉強は好き」「国語の授業の内容はよく分かる」と答えている生徒が全国平均をやや下回っている。「資料を読む」、「自分の意見を発表する」、「自分の意見を書く」ことに関しては苦手と感じている生徒が多い。

【数学】「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の4領域において、A問題、B問題ともに全ての領域で全国平均を上回った。「生徒質問紙」によると、「数学の勉強は好き」と答えている生徒が全国平均をやや下回っているが、「数学の授業の内容はよく分かる」と答えている生徒が全国平均を大きく(+15.3ポイント)上回っている。「数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」は、全国平均をやや上回り、「公式やきまりの根拠を理解するようにしている」ことに関してはやや苦手と感じている生徒が多い。

質問紙調査より

生徒質問紙によると、「学校の規則を守っていますか」「将来の夢や目標を持っていますか」で「当てはまる」と回答した生徒が全国平均よりそれぞれ16.2%、5.2%(大阪市平均より17.8%、5.5%)高い。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」も「当てはまる」と回答した生徒が全国平均より2.5%(大阪市平均より4.2%)高く、成果であると言える。

また、「家で、自分で計画を立てて勉強していますか」「読書は好きですか」で「当てはまる」と回答した生徒も全国平均よりそれぞれ0.2%、0.0%(大阪市平均より2.9%、9.5%)高くなった。また、「1、2年生の時に受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」も「当てはまる」と回答した生徒が全国平均より4.1%(大阪市平均より10.8%)高くなった。

## 今後の取組

今後も、「大阪市の教育振興基本計画」の1「カリキュラム改革」に示されている通り、「いかに社会が変化しようとして必要とされる学力、道徳心・社会性、健康・体力をはぐくむ」取組を継続する。

基本的な道徳心・規範意識の育成については成果が上がっている。「自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか」等の生徒アンケートからは、これまで課題として挙げていた言語力の育成等についても相当の成果が表れていることが明らかになっている。今後はこれまで以上にICTを活用した協働学習や個別学習などの充実に向けた取組も実施していく。

一昨年度より英検、昨年度より漢検の受験に向けた取組も実施しているが、今後も引き続き取り組んでいきたい。



## 【 全体の概要 】

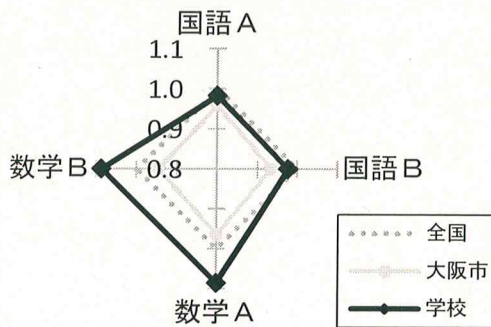
### 平均正答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	74.3	65.0	67.5	47.9
大阪市	72.5	62.1	60.0	41.7
全国	75.6	66.5	62.2	44.1

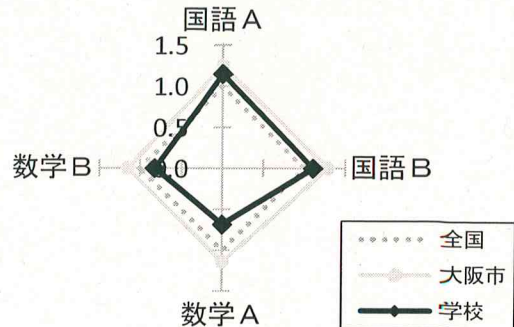
### 平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	数学A	数学B
学校	2.3	4.9	4.3	12.1
大阪市	2.5	5.7	7.2	16.9
全国	2.0	4.4	6.3	14.7

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



## 【 国語 】

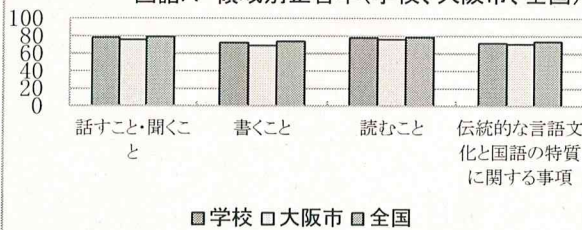
### A 問題

		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	6	78.3	75.7	78.9
	書くこと	4	72.2	69.1	73.7
	読むこと	6	77.9	76.0	78.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	72.0	71.0	73.9

### B 問題

		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	—	—	—	—
	書くこと	3	52.1	51.3	58.3
	読むこと	9	65.0	62.1	66.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	—	—	—	—

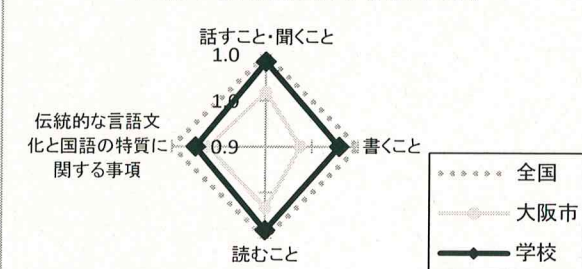
国語A 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



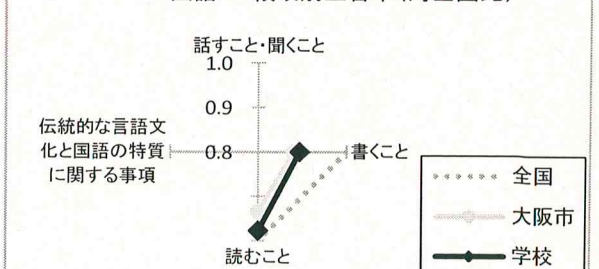
国語B 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語A 領域別正答率(対全国比)



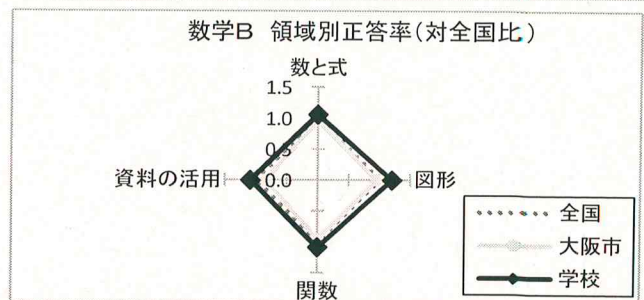
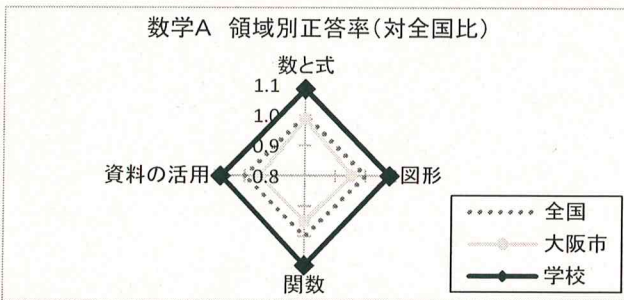
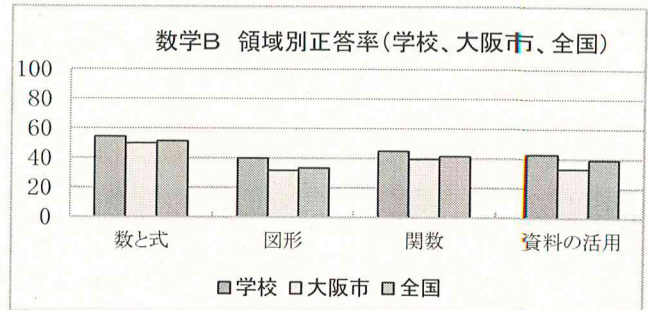
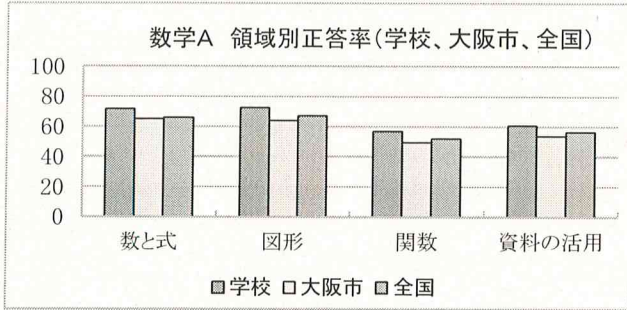
国語B 領域別正答率(対全国比)



# 【 数 学 】

A 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と式	12	71.6	65.1	65.9
	図形	12	72.5	64.1	67.1
	関数	8	57.0	49.4	52.0
	資料の活用	4	60.9	53.7	56.5

B 問題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と式	6	54.5	49.8	51.5
	図形	2	40.0	31.6	33.3
	関数	5	45.0	39.5	41.4
	資料の活用	2	43.0	33.1	39.3





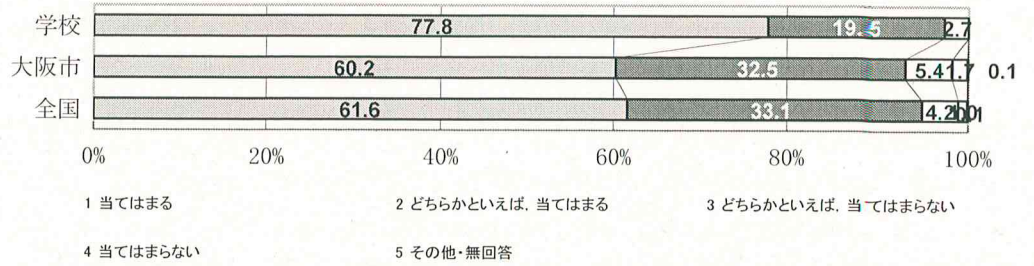
# 生徒質問紙より

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8 □9

質問番号  
質問事項

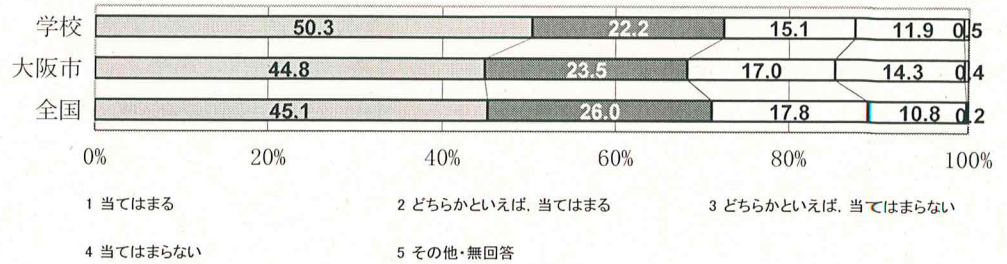
39

学校の規則を守っていますか



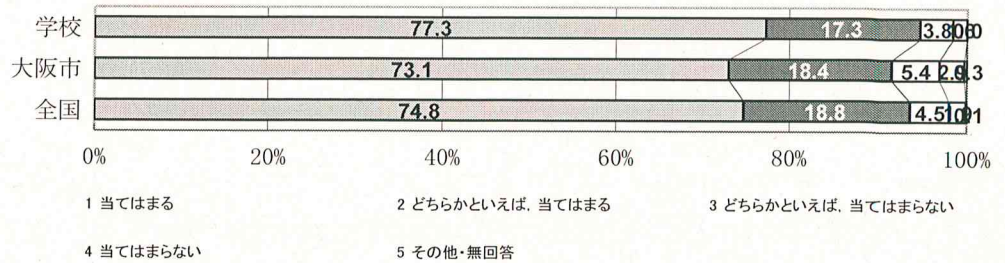
9

将来の夢や目標を持っていますか



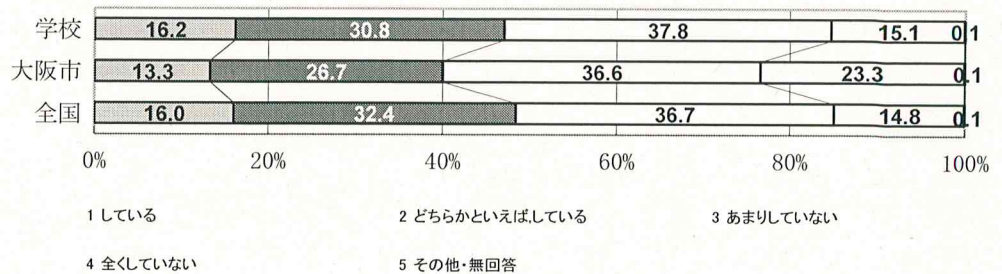
42

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



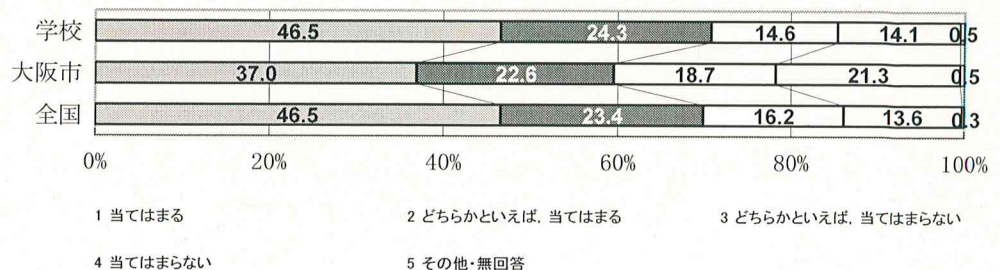
21

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



64

読書は好きですか



# 学校質問紙より

□1 □2 □3 □4 □5 □6 □7 □8 □9 □10

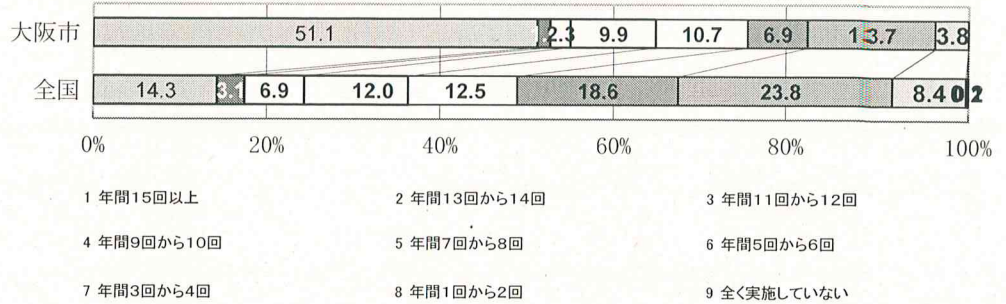
質問番号

質問事項

107

授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか

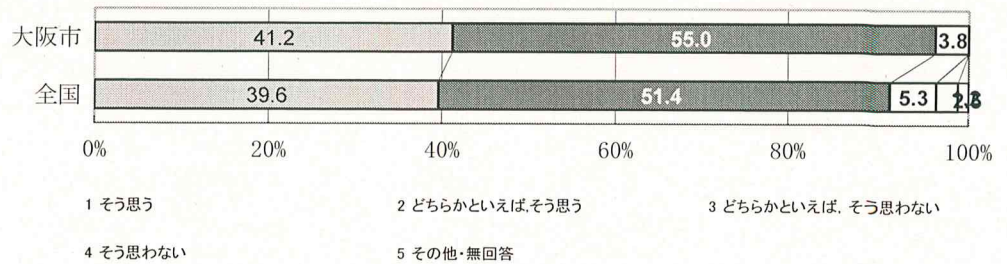
## 学校「年間15回以上」を選択



89

保護者や地域の人の学校支援ボランティア活動は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか

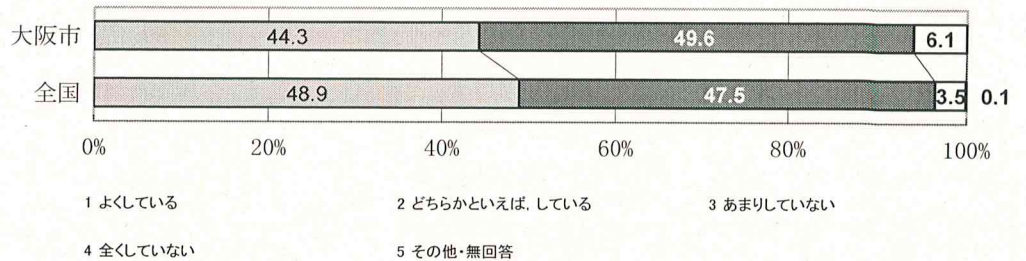
## 学校「そう思う」を選択



113

学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか

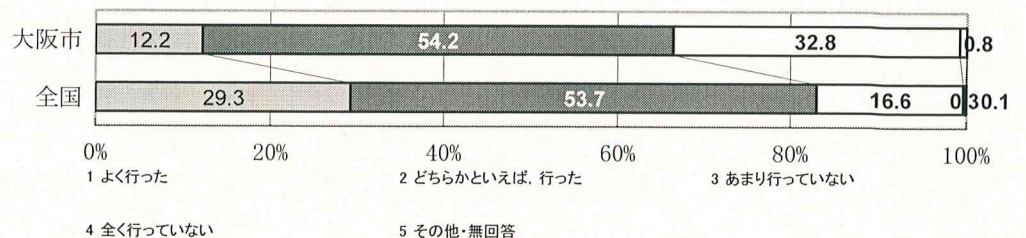
## 学校「どちらかといえば、している」を選択



43

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか

## 学校「どちらかといえば、行った」を選択



56

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、コンピュータ等の情報通信技術(パソコン(タブレット端末を含む)、電子黒板、実物投影機、プロジェクター、インターネットなどを指す)を活用して、子供同士が教え合い学び合うなどの学習(協働学習)や課題発見・解決型の学習指導を行いましたか

## 学校「あまり行っていない」を選択

